

平成 28 年 11 月 14 日

各 位

上場会社名 株式会社 郷鉄工所  
 代表者名 代表取締役社長 長瀬 隆雄  
 (コード番号 6397)  
 問合せ先責任者 常務執行役員 若山 浩人  
 (TEL. 052-586-1123)

## 平成 29 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 業績予想と実績との差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 28 年 10 月 11 日に公表しました平成 29 年 3 月期 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日) 第 2 四半期累計期間の業績予想と本日公表の実績において、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 29 年 3 月期通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 業績予想と実績との差異

##### (1) 連結業績予想数値との差異 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,789	△500	△533	△460	△29.10
今回実績 (B)	1,410	△851	△978	△905	△57.25
増減額 (B)－(A)	△379	△351	△445	△445	
増減率 (%)	△21.2	－	－	－	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	1,892	△155	△180	△194	△16.09

##### (2) 個別業績予想数値との差異 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,767	△513	△440	△27.84
今回実績 (B)	1,391	△968	△895	△56.62
増減額 (B)－(A)	△376	△455	△455	
増減率 (%)	△21.3	－	－	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	1,892	△155	△180	△16.09

## 2. 平成 29 年 3 月期通期業績予想の修正

### (1) 連結業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,653	△487	△545	△473	△29.92
今回修正予想 (B)	3,666	△842	△1,024	△953	△60.29
増減額 (B) — (A)	△987	△355	△479	△480	
増減率 (%)	△21.2	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	3,831	△699	△751	△903	△74.62

### (2) 個別業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,600	△525	△453	△28.66
今回修正予想 (B)	3,616	△1,014	△943	△59.66
増減額 (B) — (A)	△984	△489	△490	
増減率 (%)	△21.4	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	3,790	△751	△913	△75.44

## 3. 差異及び修正の理由

### (1) 第 2 四半期(累計)業績予想と実績との差異

#### ◎売上高の減少の主な要因

○環境装置部門のうち、太陽光パネルの販売による売上計上を予定しておりましたが、以下の理由により約 200 百万円減少いたしました。太陽光パネルの販売に関しては、太陽光発電設備工事の経験から太陽光パネルのみの販売にも当期より着手してまいりました。しかしながら完成品を仕入れそのまま他社へ販売した取引の流れであり、一連の取引に当社の役割に合理性がないこと、また、取引自体も赤字受注となったことから、売上計上することは正しくないと判断いたしました。売上高から仕入高を差し引いた差額のみを損失計上する形としております。なお、差額の損失につきましては、平成 28 年 10 月 11 日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」の修正予想に折込み済みです。

また、破砕機の売上を見込んでおりましたが失注及び第 3 四半期以降に延びたことにより約 100 百万円減少いたしました。

○橋梁鉄構部門のうち、工事進行基準を採用している橋梁案件において工事現場の進捗が予定より遅れたため、約 70 百万円減少いたしました。

#### ◎営業利益及び経常利益の減少の主な要因

○売上高の減少のうち、破砕機の売上および橋梁工事の売上減少により約 20 百万円の減少となりました。

- 環境装置部門のうち、太陽光発電設備工事につきまして現在進行中の一部（完成間近なもの等）を除き、当社が債務超過であることの影響もあり今後精算（契約の取消、かかった原価の処分または他社への転売等）していくことといたしました。それにより、工事損失引当金約40百万円、回収の可能性が不確実なことによる貸倒引当金繰入約290百万円を計上したことにより減少となりました。
- その他、貸倒引当金繰入としまして、太陽光発電設備工事で既に売上済みの売掛債権の回収が不確実なことにより約42百万円、関係会社（株式会社ECCエコクリーンカンパニー）への貸付金の回収が不確実なことにより約20百万円、土地取引の着手金の回収が不確実なことにより約10百万円を計上し減少となりました。

## （2）通期業績予想の修正

### ◎売上高の減少の主な要因

- 第2四半期累計期間における売上高の減少に加え、環境装置部門のうち、太陽光発電設備工事につきまして第3四半期以降に売上見込みをしておりましたが、今後精算することとしたためにより約600百万円の減少を予定しております。

### ◎営業利益及び経常利益の減少の主な要因

- 第2四半期累計期間における利益の減少に加え、売上高の減少に伴う利益の減少約10百万円（太陽光発電設備工事における利益は薄利の見込みとしておりました）と、今後の資金借入にかかる費用約30百万円を見込んだことにより減少予想としております。

上記業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値とは異なる可能性があります。

以 上